

大栗 民江

(公明党)

各種予防ワクチンの助成は

問 ヒブ・小児用肺炎球菌・子宮頸がん予防ワクチンを今年度補正で公費助成する市町村が増えているが、本市の考えは。

答 保健福祉の総体予算を考慮しながら検討したい。

問 子宮頸がん予防ワクチンは本人・保護者の周知と協力、また社会の理解が必要。普及啓蒙をどう進めていくのか。

答 家庭教育やPTA、各団体等と話し合いを進め、予防の啓蒙活動に取り組んでいきたい。

問 高齢者肺炎球菌ワクチンの公費助成の見解は。

答 個性性を考慮する必要がある。任意接種であることから現在のところ考えていない。

色弱の方に配慮したまちづくり

問 多くの情報がカラー化・多色化されてきた。ホームページや刊行物・案内表示などへの配慮が必要。今後の取り組みは。



カラーユニバーサルデザインの本と家読冊子

答 職員のユニバーサルデザインに対する理解、意識啓発に努め配慮した情報発信に努める。

問 色覚検査が廃止されているため、特性を持つ人や一般の人にも見えやすく工夫を凝らしたチョークを全ての子どもたちのために導入すべきでは。

答 電子黒板等での対応を図る。

読書活動の推進

問 家読ユチドクや家族の絆を深めるきっかけづくりとなる乳幼児への絵本をプレゼントするブックスタートの今後の取り組みは。

答 家庭内に絵本がある環境づくりが必要。乳幼児期からの読書推進について、配付物の内容や取り組みを検討していく。

大橋 秀行

(民主クラブ)

有害鳥獣の利活用は

問 エゾシカの個体管理と資源の有効活用策、解体処理施設についての考えは。

答 鹿柵の設置が完了した後も個体数の管理を行っていく。今後も猟友会の協力をいただきながら、効率的な駆除に取り組んでいく。また、資源の有効活用を図るための解体処理施設については、先進地の視察研修や飲食店でのメニュー化の可能性など検討している。



増えつづけるエゾシカ

問 解体処理施設整備の課題は。

答 事業の継続が必要であり、流通・販売先の確保が重要である。さらに、事業主体、施設整備費用の負担、管理運営費などの課題があり、今後とも継続して検討していく。

担い手支援は

問 緑峰高校農業特別専攻科の現状と今後の課題は。

答 現在、定数の半分で、学生の確保が存続に向けて重要。沿線市町村と関係機関・団体が危機感を共有、連携し、入学生を確保し、地域リーダーの育成を図るため、北海道教育委員会に強く要請する。

問 多くの課題に的確に対応できる現役の担い手、地域リーダーを育成するため農業団体と連携した農業者学校(仮称)の開設の考えはあるか。

答 地域農業者との情報共有をはじめ、他業種との交流が必要である。青年団活動などの活性化が重要。農業者学校あるいは農業塾などについて、関係機関・団体と連携し検討する。

【その他の質問】

◇異常気象への対策は